

資料2 別添1

各地域包括ケア推進会議における論点

各地域包括ケア推進会議における主な議論

包括	日	参加者					議題	①課題	②関係する個別事例	③地域での対応方針	④地域での対応状況 今後の方向性	⑤市レベルで期待すること		
明第1	11月30日	町会	0	医師	2	ケアマネ	1	地域で暮らす不安を抱える高齢者の早期発見、早期支援のために出来る事に出来る事	ア	〇高齢者の見守り支援の仕組み作り 〇早期に異変のサインに気づき、支援につなげる	〇自宅での生活を望む、障害を持つ独居高齢者 〇ギャンブルに依存する本人と家族へのアプローチ	〇早期に異変のサインを覚知するためのチェックリスト・フローチャート案を共有。 〇早期支援に繋げるための連絡体制を構築するための仕組み作りをする。	〇社会から孤立している高齢者を早期に覚知、支援するため、チェックリストやフローチャートを作成。 〇近隣の商店・宅配業者など地域住民による見守りネットワークを構築。	〇高齢者等見守り活動に関する協定締結事業所内の定例会等で情報共有がされていない。 〇孤立している高齢者を早期に覚知するための指標がない。
		地区社協	1	歯科医師	0	介護事業者								
		市社協	0	薬剤師	1	通所介護	2							
		民生委員	2	保健師	1	訪問介護	0							
		ボランティア		作業療法士	0	訪問看護	1							
		二層ワーキング生活支援CO	2	医療相談員	0	地域包括	7							
		NPO協議会	0	理学療法士	1	市役所	2							
		健康推進員	0	民間企業	4	グループホーム	0							
			1	商店	2	小規模多機能	0							
		福祉用具事業所	1	合計	32									
明第2西	11月8日	町会		医師	1	ケアマネ	7	地域で取り組む介護予防！「フレイルを知ろう」	ア	栄養・食事の重要性を知る	明らかにフレイルが進行していて、近所の人も心配しているが、こちらが提案するフレイル対策に全く取り組もうとしない男性高齢者	フレイル予防に良いメニューや献立を写真入りで、朝・昼・晩、1週間分掲載するチラシを作り、コンビニやスーパーなどに置いてもらう。	〇「フレイル」という言葉を知っている地域の高齢者は増えているので、具体的な予防対策を提案 〇地域包括が発足を手伝った「男の料理くらぶ」が活動を継続	高齢者になる前から健康維持に取り組む人が増えるような対策に取り組んでほしい。
		地区社協		歯科医師	2	介護事業者								
		市社協		薬剤師	1	通所介護								
		民生委員	2	管理栄養士	1	訪問介護								
		ボランティア		作業療法士	1	訪問看護	1							
		高支連		医療相談員		地域包括	4							
		生活支援CO	1	理学療法士	1	市役所	2							
				警察		認知症グループホーム	2							
				消防		小規模多機能								
				合計	26									

各地域包括ケア推進会議における主な議論

包括	日	参加者				議題	①課題	②関係する個別事例	③地域での対応方針	④地域での対応状況 今後の方向性	⑤市レベルで期待すること	
明第2 東	11月15日	町会	1	医師	1	ケアマネ	1	防災マップ情報の確認・追加した方が良い情報は無いのか	○避難場所をもっとわかりやすく、避難場所の特色も記載 ○AED設置は建物内だけでなく、自動販売機内に設置してある場合もある、消火器を屋外に設置している町会もあるため記載 ○マップがあることを知らない方が多い	○地図情報があるのか ○マップ上の危険箇所について、実際と想定で差異があるため、各エリアの民生委員や地域住民の意見聴取 ○地図に記載されている事業所に配布する ○実際に歩いて地域を知る機会を作る ○「公衆電話をかけてみる」を実際に行う機会		
		地区社協		歯科医師	1	介護事業者						
		市社協		薬剤師	1	通所介護	1					
		民生委員	2	看護師		訪問介護						
		ボランティア		作業療法士		訪問看護						
		高支連		医療相談員		地域包括	6					
		生活支援CO	1	理学療法士	1	市役所	1					
				1	警察	特別養護老人ホーム						
				1	消防	小規模多機能	1					
						合計	20					
本庁	11月29日	町会	1	医師	1	ケアマネ	1	マンションに住む高齢者の課題に対しマンション内コミュニティー不足や外部支援が困難というマンション特有の課題もある。	マンションに住む認知機能低下している独居高齢者の自宅がゴミ屋敷。外部からの支援もセキュリティ高く困難であり。マンション内コミュニティーも不足している。	マンションに住む高齢者の変化を早期に気づき、支援する事の重要性を各マンションに確認。 ○コミュニティーの重要性と、課題があった際の相談先を周知。	○相談窓口として地域包括を周知。 ○2層ワーキングマンションコミュニティープロジェクト作成マンションサポートブックを各マンションに配布。	○マンションのコミュニティーに対する市内好事例の情報発信やセミナー等の開催。
		地区社協		歯科医師		介護事業者						
		マンション理事長	6	薬剤師	2	通所介護	1					
		民生委員	3	看護師		福祉用具	1					
		ボランティア		作業療法士		訪問看護	1					
		高支連		学識経験者	1	地域包括	5					
		生活支援CO		マンション管理士	2	市役所	3					
				マンション管理員	2	特別養護老人ホーム						
				まつどNPO協議	3	小規模多機能						
				しぐなるあいず	1	合計	34					

各地域包括ケア推進会議における主な議論

包括	日	参加者				議題	①課題	②関係する個別事例	③地域での対応方針	④地域での対応状況 今後の方向性	⑤市レベルで期待すること		
矢切	11月27日	町会	1	医師	1	ケアマネ	1	いきいきと暮らすための矢切地区の活動や社会資源について (副題：高齢者自身が地域の支え手に)	地域にある資源に対して地域住民へうまく繋がられていない。	リハビリ効果で身体状況が改善しても活動できる場がわからない。	多機能コーディネーターを含め今ある資源を把握しその団体をサポートすることにより繋がりをやすくする。	町会や民生委員、介護サービス事業所も地域の資源を活用していく土壌を作る。	
		地区社協	1	歯科医師	1	介護事業者							
		市社協	1	薬剤師	1	通所介護	4						
		民生委員	5	看護師		訪問介護							
		ボランティア		作業療法士		福祉用具	1						
		高支連		有識者	1	地域包括	5						
		生活支援CO		保健センター	1	市役所	1						
				警察		特別養護老人ホーム							
				消防		小規模多機能							
						合計							
東部	9月12日	町会		医師	2	ケアマネ	2	認知症があり道に迷ってしまう高齢者が安心して生活できる地域にするために、災害時の対策としてどのような社会資源があれば良いか	〇徘徊を繰り返す認知症の70代の方が在宅生活を続けるためには	〇指定避難所までのルートは坂道が多く高齢者が実際に避難できるのか。町会で防災訓練を継続して行く。 〇地震による停電・断水に備えて、在宅で医療機器（エアマット、酸素、吸引機など）を使用している人は、充電式を購入したりポンペを常備するなど対策を継続して行く。 〇避難行動要支援者名簿は、ケアマネには市から送られてくるため登録を勧めていく。	〇世代が変わっていくので、安否確認アプリやバイタルチェックアプリなどの活用も進めていく。 〇災害等による停電・断水に備えて、在宅で医療機器を自家用発電機の購入等も視野に入れて検討。 〇現在は町会など地域で支えている部分が多いが、若い世代は町会に入る人が少ない。将来的には機能しなくなることで予測されるため、若い世代にもアプリなどの周知を行い、備える必要がある。 〇地域のお祭りなどのイベントで、多世代交流を通して周知を行い、高齢者のつながりと若い世代のツールをマッチングさせる	〇災害時の電源の確保として自家用発電機があるが高価なため助成などがあれば良い。 〇安否確認アプリやバイタルチェックアプリなどの活用の整備を行政が行い、スマホを使えるように相談会等を開催する。 〇集会所のwi-fi整備など、地域に災害時の拠点を作れるように動いて欲しい。 〇避難行動要支援者の登録5%という地域がある。個人情報関係及び登録作業が煩雑であることが要因。市でも必要性を呼びかけてほしい。本当に支援を必要としている人が登録できない作業が煩雑である。 〇常設の多世代交流の場	
		地区社協		歯科医師	1	介護事業者							
		市社協		薬剤師	1	通所介護							
		民生委員	1	看護師	1	訪問介護							
		ボランティア		作業療法士		訪問看護	1						
		高支連	1	医療相談員		地域包括	3						
		生活支援CO		理学療法士	1	市役所	1						
				警察		特別養護老人ホーム							
				消防		小規模多機能							
						合計	14						

各地域包括ケア推進会議における主な議論

包括	日	参加者				議題	①課題	②関係する個別事例	③地域での対応方針	④地域での対応状況 今後の方向性	⑤市レベルで期待すること	
常盤平	11月16日	町会	2 医師	1 ケアマネ	10	様々な要因で社会参加が難しくなった方がもう一度地域とのつながりを持つためにできること	ア	<ul style="list-style-type: none"> ○地域の方との交流や活動を促すような声掛けや関わりをどのように作るか ○コロナ感染・廃用症候群のリスクを説明する必要 ○地域の行事等に、声掛け・お誘いをする仕組みを作るには ○地域住民や民生委員、相談協力員による見守り、声掛けが必要 ○気楽に参加できるサロンが必要 ○地域での新たなつながりを持つことができる仕組み ○身寄りがない高齢者が、緊急時や亡くなった時に安心して活用できる仕組み 	<ul style="list-style-type: none"> ○コロナウイルス感染への不安から不活発な生活になった利用者への今後の対応について ○介護保険サービス以外の社会的関わりが少ない為、認知症の進行が心配される ○独居で親族もなく今後の生活や死後の手続きの不安を度々訴える高齢者への対応について ○認知症の進行による、他者に迷惑をかける行動や心理症状を軽減できる支援方法について 	<ul style="list-style-type: none"> ○認知症の方を支援する ○防災訓練等、炊き出し ○若い方の協力が必要 ○コミュニティカフェ・サロン・サークル等を作り、社会参加を促す。 ○行事に参加していただく ○こども食堂に高齢者の方も参加しやすくする ○町会、民生委員、地域包括の存在を認識する ○ケアマネとして地域の活動の橋渡しを実施 ○地域活動等の情報を持ち、マッチング ○気軽に相談できる体制 ○行事に参加しない人への対応が必要である ○地域活動に参加するには、きっかけとなる活動が必要である ○声掛けにも勇気が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ○ラジオ体操を行い、多世代交流が増えてきている ○地域包括のイベント参加 ○災害時の避難場所を把握する必要がある ○若い人の力を取り入れる ○必要とされる場の創出 ○イートインスペースの活用、つながりの場の創出 ○町会の人声掛け ○高齢者が利用しやすい食堂 ○相談協力員・民生委員と繋がり連携していく ○民生委員から地域包括に相談をしていただく ○地域で活動している人が連携をしていく ○軽度認知症の方を受け入れられる作業所の体制拡充と受け入れの強化 ○体操教室等を開催するための相談窓口 	<ul style="list-style-type: none"> ○活動場所、資金の確保 ○認知症の方でも活躍できる場の創出 ○若い方たちの参加・協力の強化 ○地域包括・民生委員・相談協力員等の繋がりを強化 ○50～60歳の方、障害のある方は制度の枠に収まらず支援につながらない ○引きこもりの方等、支援が進まない ○ボランティアはできることが限られているので行政の協力が不可欠 ○個人情報問題があり情報が得られないことが多い、必要時は活用できるようにする（災害時も含む） ○介護保険以外の買物サービス ○男性に対する支援 ○巡回バス、タクシー券等外出支援
		地区社協	0 歯科医師	1 介護事業者								
		市社協	0 薬剤師	2 通所介護	0							
		民生委員	1 保健師	0 福祉用具	0							
		ボランティア	理学療法士	1 訪問看護	0							
		高支連	0 医療相談員	2 地域包括	5							
		生活支援CO	0 基幹	2 市役所	2							
		警察	0 司法書士	0 特別養護老人ホーム	1							
			成年後見相談員	1 商店	1							
地域活動	4 NPO	1 合計	37									
常盤平 団地	10月5日	町会	1 医師	1 ケアマネ	4	団地住民への支援にあたっての困り事を共有し、円滑な支援につなげる手法を検討しましょう	ア	<ul style="list-style-type: none"> ○独居高齢者の孤立・孤独 ○認知症高齢者の生活支援 ○コミュニケーション機会の不足 	<ul style="list-style-type: none"> ○認知症の自立高齢者。本人の生活の質を高める支援とは ○認知症の独居高齢者が火災にあった場合の住宅確保支援について。 ○本人が認知症の配偶者を介護。虐待があり経済的にも困窮し適切なサービス導入ができないケース ○被害妄想があり、支援に結びつけられないケース 	<ul style="list-style-type: none"> ○協力者を増やすための機会を検討する ○地区社協ホームヘルプ事業の協力者を増やす ○市社協ふれあいサービスの充実 ○日曜市のような人の集まる機会、近くで買い物出来る仕組みの充実化 ○傾聴ボラの充実 ○買い物、通院支援 ○ネットサービス支援 	<ul style="list-style-type: none"> ○お茶を飲む会の継続実施 ○住民向け情報提供のためのイベント開催 ○ボランティア養成 	<ul style="list-style-type: none"> ○人口構造の改善 ○家賃0円で働きの確保 ○団地敷地内に移動店舗来れる仕組み ○宅配BOX設置 ○階段昇降機の利用 ○訪問リハビリの利用補助 ○乗り合いタクシー、バス ○共用部に介護保険が使えない ○個人情報保護の壁による関係者共有の困難さ
		地区社協	0 歯科医師	0 介護事業者								
		市社協	0 薬剤師	1 通所介護	1							
		民生委員	2 看護師	0 訪問介護	0							
		ボランティア	作業療法士	1 訪問看護	1							
		高支連	0 医療相談員	1 地域包括	5							
		生活支援CO	1 理学療法士	1 市役所	2							
		民児協	0 警察	0 司法書士	0							
		大学実習生	4 消防	0 団地事業者	0							
			福祉用具	1 合計	26							

各地域包括ケア推進会議における主な議論

包括	日	参加者						議題	①課題	②関係する個別事例	③地域での対応方針	④地域での対応状況 今後の方向性	⑤市レベルで期待すること
五香松 飛台	11月30日	町会		医師	1名	ケアマネ	8名	地域とケアマネとの連携について	非常時の地域とケアマネの連携	独居で身寄り無く、地域との関りも希薄。ゴミも散乱しており災害時が心配。	民生委員・相談協力員とケアマネとの連携方法の会議を3月に実施。以後も年2回継続的に実施し顔の見える関係を構築。	○認知症の要支援者を福祉避難所から2次福祉避難所へ民生委員と避難訓練を実施。動画で記録し必要時配信。 ○民生委員、高支連の名簿一覧を随時配布。	防災計画や避難計画の普及啓発
		地区社協	2名	歯科医師	名	介護事業者							
		市社協		薬剤師	1名	通所介護							
		民生委員	5名	看護師	1姪	訪問介護							
		ボランティア		常盤平基幹	2名	訪問看護	1名						
		高支連	4名	管理栄養士	名	地域包括	6名						
		生活支援CO	1名	理学療法士	名	市役所	2名						
		松戸NPO	1名	学校長	2名	特別養護老人ホーム	1名						
				健康推進課	1名	小規模多機能							
				その他	名	合計	39名						
六実六 高台	11月15日	町会	2	医師	1	ケアマネ	6	あなたがひどい物忘れを自覚したら、どうしますか。	物忘れの自覚があっても病院や相談機関につながらない。 認知症の方が望む生活がイメージできない。	○認知症があり、外に出て行方がわからなくなるご利用者 ○独居で認知症を発症している方の支援について	○地域で気づけるよう、認知症に対してお互い正しい知識を持つ ○認知症の啓発、認知症サポーター養成講座を継続する ○ケアパスの周知 ○エンディングノートの周知	○認知症の負のイメージを払拭できるよう、市レベルでも啓発を行う ○早期・確定診断の受診について勧める	
		地区社協	1	歯科医師	1	介護事業者							
		市社協		薬剤師	1	通所介護	2						
		民生委員	1	看護師	0	看多機	1						
		ボランティア		作業療法士	0	訪問看護	0						
		高支連	0	医療相談員	0	地域包括	4						
		生活支援CO	0	理学療法士	1	市役所	2						
				警察	0	特別養護老人ホーム	1						
				消防	0	小規模多機能	1						
				GH	1	合計	26						

各地域包括ケア推進会議における主な議論

包括	日	参加者				議題	①課題	②関係する個別事例	③地域での対応方針	④地域での対応状況 今後の方向性	⑤市レベルで期待すること		
小金	10月26日	町会	1	医師	1	ケアマネ	○地域の取り組み ○地域の情報共有 ○今後の開催について意見交換	○坂道が多いため自転車での外出が困難な事例 ○移動支援があるとよい事例 ○近隣にスーパーがない地域に住む方の事例	○公園での移動販売の導入 ○グリーンスローモビリティの導入	松戸市社会福祉協議会と商店、市で移動販売の導入を調整中	移動販売、グリーンスローモビリティの導入支援		
		地区社協	1	歯科医師	1	介護事業者							
		市社協		薬剤師	2	通所介護							
		民生委員	1	看護師	1	訪問介護							
		ボランティア		作業療法士		訪問看護							
		高支連		医療相談員		地域包括						3	
		生活支援CO		理学療法士		市役所						3	
				警察		特別養護老人ホーム						1	
				消防		まつどNPO協議会						1	
				元気応援クラブ	1	合計						17	
小金原	11月28日	町会	4	医師	1	ケアマネ	町会の方より地域活動を通して課題に対して苦慮している事を発表してもらう。それに対して専門職の考え方、介護保険サービスの利用の仕方等照らし合わせる	地縁の欠如、地域から疎まれる行動、独居、子も疾患あり、家族の介護負担、認知症、家族と絶縁状態	○団地内に空き部屋や孤独死、ゴミ屋敷が増加している。 ○精神疾患の方への対応に苦慮している。 ○コロナ禍でおしゃべりサロンが中止となり町民のADLが低下した。再開したいが担い手不足と担い手の高齢化問題あり	○町民の安否確認や情報交換の為に町会行事を実施している。 ○認知症の方を町内会で見守りを行なっているが、個人情報の壁があり、気付く所で支援が止まってしまう。	○出張包括やバトワークを町会・自治会と行い、地域とのつながりを強化する。 ○まつどDEつながるステーション、2層ワーキングに参加し住民や専門職○多世代交流を行ない、地域共生の視点を持ち横の繋がりを作っていく。	○個人情報の問題で支援が進まないケースがあり、対応方法を検討する。 ○民生委員や地域の担い手不足があり、思うように活動を実施出来ない。	
		地区社協		歯科医師		介護事業者							
		市社協		薬剤師		通所介護							
		民生委員	1	保健師		訪問介護							
		ボランティア		作業療法士		訪問看護							1
		高支連		スクールソーシャルワーカー		地域包括							
		生活支援CO		理学療法士		市役所							2
		オレンジ協会員		UR		傍聴・包括							5
		MSW	1	ゆうちょ銀行		小金基幹おんぶ							
				活動団体		合計							18

各地域包括ケア推進会議における主な議論

包括	日	参加者				議題	①課題	②関係する個別事例	③地域での対応方針	④地域での対応状況 今後の方向性	⑤市レベルで期待すること
新松戸	11月21日	町会	1 医師	1 ケアマネ	2	認知症になっても安心して暮らしていくために出来ること	<p>○徘徊高齢者の情報提供書が、昨年度31件、今年度は9月末時点で31件であり、増加傾向にある。</p> <p>○今年度新松戸地区では同一人物の徘徊事例が複数ある。</p> <p>○マンション管理組合等の地域住民が認知症の方の対応に困っている。</p> <p>○認知症に対して正しい理解を持っている住民もいればそうではない住民もいる。</p>	<p>○R5.7.18の事例 認知症状が進み一人暮らしが困難になってきた方への支援</p> <p>○R5.9.19の事例 夫婦ともに認知症で自宅もごみ屋敷になっているが、サービスの拒否があり支援が進んでいないケース</p> <p>○R5.9.19の事例 徘徊を繰り返しており在宅生活のリスクは高いが、子が在宅介護を希望しているケース</p>	<p>○子供の時から認知症に関する啓発を行うとよい。</p> <p>○YouTubeやティックトック等の媒体を用いて認知症の方への接し方など動画配信してはどうか。</p> <p>○徘徊ロールプレイの実施。</p> <p>認知症と思われる方への声かけ方の練習。認知症と思われる方の特徴をチェックリストなどにするとわかりやすい。子どもが徘徊高齢者等心配な高齢者を発見した時の対応方法を実施。</p> <p>○子どもと高齢者が関わる場を作っていく。</p> <p>○徘徊高齢者発見時の通報先の周知。</p>	<p>○認知症関連の講座や認サポを実施していく中で、認知症と思われる方の特徴や対応の仕方、徘徊高齢者発見時の連絡先の周知を行っていく。</p> <p>○引き続き子どもに向けても認サポを行っていく。</p> <p>○徘徊訓練実施や、チェックリスト作成、動画作成の検討。</p>	<p>○教育機関との連携を行い、子どもの時から認知症を正しく知る機会を作っていく。</p>
		地区社協	歯科医師	介護事業者							
		市社協	1 薬剤師	1 通所介護							
		民生委員 (高支連)	2 看護師	グループホーム	1						
		ボランティア	作業療法士	訪問看護	1						
		高支連	医療相談員	1 地域包括	4						
		生活支援CO	理学療法士	市役所	1						
		マンション	警察	1 障害関係	1						
保健師	1 言語聴覚士	1 合計	22								
馬橋西	11月24日	民生委員	2 医師	ケアマネ	4	<p>高齢者、独居、認知症、精神疾患などの理由により、ゴミが課題となってしまう方が増えている。</p>	<p>ゴミ収集事業を利用していたが、ゴミ集積場の掃除をしなくてはいけなくなってしまう。</p>	<p>○ゴミが課題となってしまう方々を把握する。</p> <p>○町会で資源ごみなど定期的に出せる為の契約を増やしていく。</p>	<p>○困っている人と手伝える人のマッチング、</p> <p>○前日から出しても良い様なゴミ捨て場づくりが出来ないか検討を行う。</p>	<p>○ゴミの分別方法やゴミ捨ての時間の緩和。</p> <p>○民間企業への委託、小中学生ボランティアの育成。</p>	
		地区社協	1 歯科医師	介護事業者							
		市社協	1 薬剤師	2 通所介護							
		ボランティア	言語聴覚士	1 訪問看護	1						
		高支連	医療相談員	地域包括	5						
		生活支援CO	理学療法士	市役所	1						
			警察	特別養護老人ホーム							
			消防	小規模多機能							
	生活支援コーディネーター	1 合計	18								

各地域包括ケア推進会議における主な議論

包括	日	参加者				議題	①課題	②関係する個別事例	③地域での対応方針	④地域での対応状況 今後の方向性	⑤市レベルで期待すること		
馬橋	11月2日	町会	医師	1	ケアマネ	1	防災力を高めていくための地域 の関係性づくり ア	○平時より地域の事業所間での情報共有ができていない。 ○地域住民に、それぞれの事業所がどのようなことをしているか認知されていない ○災害のフェーズによって必要な連携や取り組みが異なる	○家の中の整理整頓ができず、ストーブを使っているため、火事になる危険の高い方がいる ○独居で電話を持っていないため、何かあった際に助けを求めることができない	○事業所毎で地域の防災訓練に参加することはある ○今まで地域との交流していた施設も、コロナ化で活動ができなくなってしまった ○災害時に地域住民の方が施設を活用できるように、調整しているところもある ○民生委員は、何かあったときに声をかけてもらえるよう、日々関わってくださっている	○事業所間での連絡会を立ち上げる ○2層ワーキングとも連動し取り組み ○住民への啓発活動	発災時の地域包括、介護事業所、施設等の連携方法に関するガイドラインの作成	
		地区社協	歯科医師	1	介護事業者								
		市社協	1	薬剤師	1	通所介護							1
		民生委員	2	看護師		訪問介護							1
		ボランティア		理学療法士	1	訪問看護							1
		高支連	医療相談員		地域包括	5							
		生活支援CO	1	管理栄養士	1	市役所							2
			警察		グループホーム	1							
			消防		小規模多機能	2							
					合計	23							